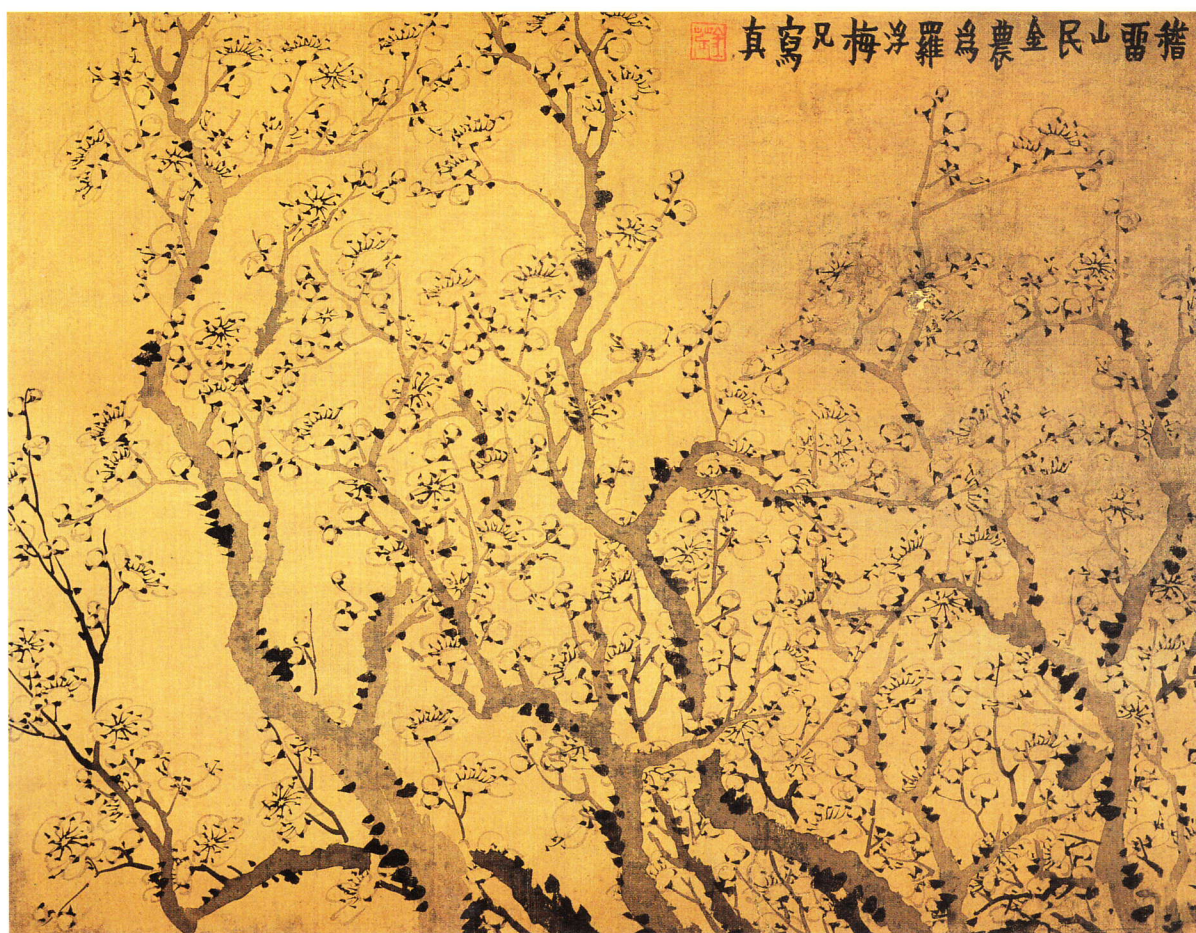


特別展 橋本コレクション

十八世紀の中国絵画

—乾隆時代を中心に—



金農「梅図」

平成6年4月6日[水]～5月22日[日]

前期=4月6日[水]～4月24日[日] 後期=4月26日[火]～5月22日[日]

開館時間：午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）

休館日：4月10日[日]・11日[月]・18日[月]・25日[月] 5月2日[月]・8日[日]～12日[木]・16日[月]

入館料：一般200円(160円)／小中学生100円(80円)／()内は20名以上の団体料金

渋谷区立松濤美術館

〒150 渋谷区松濤2-14-14 電話(03)3465-9421 井の頭線「神泉駅」下車徒歩5分・「渋谷駅」下車徒歩15分

十八世紀の中国絵画

—乾隆時代を中心に—

大帝と称せられた康熙帝（在位：1662-1722）による帝国版図の拡大、雍正帝（在位：1723-1735）による統治の確立を承け、乾隆帝（在位：1736-1795）の時代に清朝はその極盛期を迎えます。その統治の版図、密度において当時の欧州諸国を凌駕し、いわば、18世紀は中国の時代であったといえます。

政治的安定のもとに、経済的な繁栄が築き上げられ、その経済力を背景として清朝文化は爛熟を迎えました。その典型を、塩の都揚州に見ることができます。塩の取り引きにより富を築いた揚州塩商は、名画や図書を集め、学者や芸術家に見せ、或は庇護したために、各地から文人墨客があつまり、揚州は学芸の中心となったのです。

しかし、嘉慶帝（在位：1796-1820）以後、反乱の頻発や国家財政の悪化などにより急速な衰退をみせ、道光帝（在位：1821-1850）の時代、阿片戦争に破れて帝国主義諸国の蹂躪を許すことになったのです。

本展では、橋本コレクションの中から、清朝全盛期の乾隆時代を中心に、前後する康熙・雍正、そして嘉慶・道光の絵画を陳列します。

四王以来の伝統を受け継ぐ正統派、清朝宮廷の為に制作に携わった宮廷画家、金農や鄭板橋に代表される揚州八怪、また、清代に芸術の一分野として確立された篆刻家の絵画、そして、嘉慶・道光間に活躍した諸家の絵画、さらに近世日本画壇に大きな影響を与えた沈南蘋などの来舶諸家の作品を陳列し、中国の古典的絵画の終焉までの軌跡をたどります。



謝蘭生「山水図冊」



黄慎「風雨帰漁図」



銭杜「蒼松壘嶂図」



高其佩「九老図」



丁敬「墨梅図」



黄鼎「仿吳鎮漁樂図巻」

【講演会】

- 4月30日[土] 午後2時～
「揚州八怪」——京都大学人文科学研究所助教授 曾布川 寛
- 5月4日[水] 午後2時～
「古典主義の終焉—仿ということ—」——奈良大学教授 古原 宏伸

【美術映画会】

- 4月17日[日] 午後2時～ 「漢詩紀行 李白」「漢詩紀行 杜甫」
- 5月15日[日] 午後2時～ 「漢詩紀行 蘇東坡 他」「漢詩紀行 白楽天」

【美術相談】

- 4月24日[日] 午後2時～4時
講師 戸田康一(日本画家) 松島 靖(水彩画家)
- 5月22日[日] 午後2時～4時
講師 遠藤原三(洋画家) 西鳴俊親(洋画家)

